
私の好きなおじさん

七色ちきん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の好きなおじさん

【Nコード】

N7493K

【作者名】

七色ちきん

【あらすじ】

近所のおじさんと、少女の会話。

私のお向かいさんには、奇妙な男がすんでいる。

髪のとて長い男で、舞子さんみたいに髪を上の方でまとめている。長髪にするくらいなんだから、それがとても似合いそうな素敵な風貌かと思えばそうでもない。

そうでもないというか、かけはなれているといったほうが正確だ。顔はながくて四角い馬顔だし、無精髭をはやして小汚い。まゆげもつながついて、口の回りにはときに白い筋がついていることもあるくらい。

そういえば、むかしのことだけど。

「おじさん、顔に白い筋がついているよ。」

と、一度いったことがある。

やあ、と男はにっこり笑って、

「これはよだれの跡なんだよ。」

と、なぜか満足そうに、そう言った。

そのころの私はよだれの跡をそのままに平気な顔で往来をゆく男を汚いと思うより、よだれの跡はこんなにもくつきり残るものなのか、と無駄に感心した記憶がある。

そんな私に気をよくしたのか、単に気まぐれなのかはわからないが

男はさらに続けた。

「ねえ、きみ。しつてたかい？よだれとゆうのは透明なのに乾くと白いカスを残していくんだよ。なにもないよう中で中には色々なものを包括しているんだよ。」

うふふ、と夢見るようにわらって男は続けた。

「ねえ、きみ。きみはよだれの成分がなにか今ここでいえるかい。残念だけど僕には無理なんだ。あたりまえのようにそばにあるのに普段まったく意識されないなんてまるでこの広大な宇宙のぼくらみたいだ。」

「宇宙の中のな私たちね。」

「宇宙の中のちっばけなぼくたちさ。」

今度は、あはは、と快活に笑った。
やっぱり、なぜか満足そうにそう言った。

「宇宙とか、運命とか、おおきな歴史のなかでぼくたちは無力だよ。人間は人間を意識する。動物や植物だって人間を意識する。意識するから僕達はお互いに影響を与え合う。」

でもさ、ぼくたちの行動で宇宙がなにかかわるかい。

山椒魚の言葉を借りるなら、ぼくたちは所詮おおきな流れの中に浮かぶブリキのきりくずだっただけのことさ。」

「なら、どうしておじさんはそんなに嬉しそうに話すの。私達がちつぽけなことがなぜ嬉しいの。」

「たとえ宇宙に影響を与えなくても、社会になにも還元しなくても、だれもが存在することは自由だって思えるじゃないか。ぼくみたいな生き方をしているも、宇宙は許してくれてるかんじがして安心するんだよ。」

「だれでも、好きなことしておっけー、ってことなの?」

「おっけーってことわ。」

そう言って、男はふらふらとねぐらへ帰っていった。

「おじさんは、とてもおもしろいわ。」

そうして、お向かいさんの奇妙なおじさんは、私にとって特別になったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7493k/>

私の好きなおじさん

2010年10月8日15時02分発行